廿四日夕刊
磐城時報
福島縣石城郡平町紺屋町十五
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人
福島縣石城郡平町紺屋町十五
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）定休

十年の努力奏効し
田人街道縣道編入
昨夜の縣會で決定
見逃せぬ古川傳一氏の努力

植田町から山田、田人を經て荷路夫の間明に至つて縣道三株線に合する延長三里半の植田間明線俗に田人街道と言ふは大正十五年郡制廢止まで郡道であつたものが縣道編入に洩れ村道としての取扱ひをうけてゐたが同道路は植田町を中心として山間方部から木炭その他物資の運搬道路で交通最も頻繁なため破損も甚だしく常に修理を余儀なくされ郡制廢止後今日まで十年間に七萬五千圓巨費を地元町村が負擔し漸やく維持してゐたもので山間部の貧弱町村ではこの維持が容易でなく地元民は一日も早く縣道編入を希望してゐたので元縣議で現植田町長である古川傳一氏は既に郡制廢止以來縣議時代から今日まで縣道編入の要を縣に力説し運動を續けてゐたけれども同道路が縣道三株線と並行してゐるのと井戸澤橋墜落その他の理由で縣は容易に承諾を與へず現在に至つた處、古川植田町長等は愈々今期縣會を機として最後の猛運動を起すべく去る二十日出縣田人、山田各村長等と共に内務部長土木課長等に縣編入の急を說いた結果縣でも愈々折れて縣會に諮問する事となり三日の最終縣會に於て縣會が滿場一致同意の答申をしたので十年以來地元民の希望が漸やく達したわけである。

鑛毒問題解決
入山對玉川

入山炭礦對玉川村の鑛毒賠償問題は慶報の如くであるが玉川村では二十三日大字會を開いた上村會を召集し協議の結果入山炭礦から灌漑水路改修費として金一封を受けて圓滿に解決した。

品を納入してゐる處はないので地方の名譽として水野氏は奉仕的の氣持ちで製造を急いでゐる

愛宕神社の尊體を盜み去る
賽錢を盜む序の犯行

四倉町新町愛宕神社の表戸を破り尊体並に賽錢を盜み去つた不敵の賊があるのを二十二日午前八時發見四倉署上山刑事が調査した處七五三の祭典の賽錢を目當てに忍び込んだ序に尊体を持ち去つたものらしく犯人捜索中である。

鑛詰の大量注文
陸軍省から水野工場へ

小名濱町字古港水野德次郎氏經營水野罐詰工場製造の三鱗印鰛味付罐詰は陸軍糧秣廠その他に納入し品質優良と認められ社團法人日本罐詰協會から推奬マーク貼用を認諾された旨既報の如くであるが二十二日陸軍糧秣廠では縣に對し二十五日まで鰛罐詰三千五百キロを納入方を依頼して來たので縣の命により水野罐詰工場で納入する事になつたが石城郡には同工場以外に食糧

石城郡内
卓球大會

平第三小學校主催平卓球協會大塚運動具店後援第四回郡下個人選手權卓球大會は一月二十日午前九時第三校講堂で擧行するが神宮競技規定による新ルールでトーナメント式個人試合參加資格は男子會費三十錢（晝食付）希望者は一月十八日まで平三校若くは大塚運動具店宛申込まれたいと。

▲護岸工事陳情

豐間村長鈴木藤次郎氏は二十四日平土木監督所を訪れ豐間村大字沼の内海岸並に滑津川の護岸工事の實施方の陳情をなした。

飯野青訓生
所旗樹立式

飯野村青年訓練所は模範訓練所として知られてゐるが訓練生四十八名が此程夏井川改修工事に出仕し賃銀四十一圓を出して訓練所旗を作製し出來上つたので一月元日同村小學校で樹立式を擧行する。

勿來座燒く
火鉢の殘火から

二十四日午前零時勿來町窪田皆川喜内氏所有劇場勿來座から發火し全燒した上隣りに小野寅三郎方を半燒し午前一時半鎭火した、同夜は活動寫眞の興行があつたから火鉢の殘火から發火したものであらうといはれてゐる損害取調べ中である。

けふから
刑事展覽會

平署の刑事展覽會は二十四日から四日間平署會議室に開催中であるが内郷村水五人殺しの兇器、縣内刑事問題に關係した死體の實寫贋造紙幣防彈チョッキ等外明治、大正、昭和を通じ事件に使用した兇器證據物件等が陳列されてある。

酔っぱらひ同志の喧嘩
癩患を乘せて警察へ

草野村大字下神谷字澤帶二〇農子女史は病氣中の處二十二日午前七時五十七才で永眠したが、中根酉松（四五）が二十三日午後二時頃内郷村の知り合ひで酒を飲みホロ酔ひ氣嫌で歸る途中平町で之亦泥酔してゐるルンペン東京市生れの小川卯之吉（四八）と出合ひお互ひが盛んに氣嫌をあげてゐるうち酔つぱひにお定りの口論となり癩に觸つた草野村の中根は警察に出て裁きをうけやうと自分の持つてゐたリヤカーに喧嘩相手のルンペンを乘せ警察署まで運れて來て「この野郎氣に喰はぬから調べて貰ひ度い」と願ひ出でた。係官が調べると東京のルンペンは天性の癩病患者で惡臭甚だしく近寄れぬ程の男、こんな男をよくもリヤカーに乘せて來たと係官も呆れてゐた。

四倉濱
アグリ網漁況

四倉四倉町漁業組合調査に依る四倉町仲町中野捨與氏令閨トク孟事嘱托愛國婦人會福島支部委託產婆並に四倉產婆組合長、健康保險產婆等を奉職してゐた。

夫人死亡に際し
中野氏寄附

四倉町中野捨與氏トク子夫人死去に際し中野氏は左の如く寄附した、

小學校基本財產五十圓、消防組二十圓、在郷軍人分會十圓少年消防隊五圓

尚ほ少年消防隊旗を五十圓で作製し寄附する事となつたので一月一日樹立式を擧行する。

中野氏夫人逝く

四倉町仲町中野捨與氏令閨トク

漁獲高は十萬一千余圓で漁業家別左の如し。

第一稻荷丸菅波末吉三萬三千五百圓、金比羅丸鈴木賢二三萬三千圓、善寶寺丸新妻春次三萬三千五百圓、四十八社丸石井鐵三郎二萬圓、其盛丸鈴木助治一萬一千圓

想思の肺患者
山林で悲戀の情死
兩名共絶命

鹿島村大字走熊字山の上農箱崎惣一（二五）同字宮下農久雄長女箱崎ハルヱ（二七）の兩名は二十三日朝自宅附近山林内でカルモチンを多量に飲み情死を遂げてゐるのを同日午後二時頃蘭採取に行つた人が發見小名濱警部補派出所から菊地警部補出張檢死したが男は肺結核、女は結核性脊椎カリウスで同病相憐れだ結果戀に陷つてゐたものであつた

▲内郷の賭博

二十三日午後一時頃内郷村大字一の坪三七坑夫關澤藤雄（三一）方で堀坂八坑夫蛭田末吉（三三）一の坪三七村岡惣吉（二三）濱井場運搬夫畑高藏（二四）坑夫加々美嘉三（三一）無職畑山泰次郎（三五）鈴井場坑夫佐藤勝榮（二四）の七名が花合せ賭博開帳中平署巡査に捕はれた。

明日開店
理髮　東京
◎……メヤマポマード使用
平町三丁目警察署通り（魚清前）

不思議の話（3）

四倉署　阿部生

我國では古來不思議とか迷信とかの解決に斯樣な大袈裟な手段を採つた人はあるまいと思ふが、只明治十七年頃三島通庸と云ふ縣令さんが信夫文字摺にある河原の左大臣の顔が映つたと言ふ石の正体を見たいとあつて夫れを堀り出して見た位のものだ。

口碑傳說には不思議と云ふ事は昔しから隨分多くあるが、實際夫れに遭遇したと云ふ實談を聞く事は稀れである。私は不思議の實談を述べて見ようと思ひます。

時は明治四十年私が須賀川署に勤務中の事で、署より程遠からぬ白江村の深和戸と云ふ處に相應な生活をして居る某農家がありました。主人は今頃七十五六にもなるが温厚な君子然とした樣な人に記憶してゐる、家族は七人位で村の中から十四、五になる女子守りを雇つてあるのみ、他の人は居らなかつた。

不思議と云ふのは其の年の田植頃から毎夜の如く家内の人等が夜食をして居る處に小石とか又は其附近に成熟して居る果物などが何處からともなく飛むで來ると云ふ事が毎夜の如く繰り返へされて居たが、家人は世間体を悼つてか夫れを秘密にして置いたとの事でした。

當用日記
懷中日記
特種專門日記
無慮百餘種

新年ゑはがき
文字はがき
カルタ
トランプ

歲末年始
クリスマス
答贈品各種
和洋諸帳簿品々

マルト屋柴田書店
平町四丁目
電話（一二四番）（二三四番）

靴!!　歲末大賣出し
三圓以上……一割引奉仕
定評有る……大塚の靴
堅い新型の……大塚の靴
自製　ボックス　半靴　五、〇〇
〃　〃　編上靴　六、〇〇
紳士流行靴　女靴　五、〇〇
新年ばき禮式靴　七、〇〇より
自家製品……豐富陳列
何卒御高覽下さい。
平・田町
大塚製靴店
電話七七番

例年御好評。皆樣に待ち兼ねの
歲末奉仕大賣出し
廿五日、廿六日、廿七日……の三日間
平素の御愛顧に酬ゆるため獨特の大特價で奉仕提供致します！

特別奉仕品

純毛コットンシャツ	一、〇〇
特選メリヤスシャツ	一、四〇
最上メリヤスシャツ	二、〇五
大人毛糸ヂャケツ	二、五〇
實用靴下（三足）	一、〇〇
厚地毛靴下（半打入）	一、五〇
實用毛布（二枚續）	三、〇〇
特選純毛毛布（二枚續）	三、〇〇
特選流行ショール	一、〇〇
純毛コットン婦人着	一、五〇
純毛細帯腰卷	一、七〇
上等ハンカチーフ（一打入）	一、九〇
子供毛糸セーター	一、九〇
極上皮ランドセル	三、〇〇
堀出し學生帽（見切品）	三、〇〇均一

その他實用逸品最廉價に山積提供

御贈答好適品　年末年始　特別奉仕

磐城鐵工機械同業組合

常に最良品最廉價而もこの吉例歲末奉仕是非御利用下さい！
御贈答に最適の
中野の商品券
中野洋品店
平二・電話五三番

輪界に唯一ツ
鋼鐵製全廻轉部防水式
山口ノ自轉車
注油不要、堅牢經濟品ノ良イ値ノ安イ
—（カタログ進呈）—
代理店　大高自轉車店
平土橋

自由に持ち運びの出來る
丸八瓦斯ストーブ
料金瓦斯の三分の一
火力瓦斯の三倍
御座敷、書齋、サロン、に最も好適
書齋から客間、客間より寢室、一階より二階、或は都市から山間僻地といつた樣に何處にでも持運び自由である事が本品の重寶なる特色の一つであります。
休裁優美で油煙なく、電氣、瓦斯の樣にコードなく、部屋の隅々まで春の樣な暖さを充分行き渡せます。
カフエー、事務室、應接室、大廣間に最も好適。
色彩高級、黑チリメン結晶燒付。
販賣店　福島縣平町南町
タイルと壁材料　野内建材商店
電話平一一番

質物一般
營業時間　午後九時迄
三井質店
平町四丁目川岸通り
電話六〇六番

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平町田町「電話五八番」田女學校前
（入院のお需めに應ず）（自炊の便あり）

新時代の要求
本會は篤實老練なる看護婦を急派の御用命に應じます。
電話三〇七番　平南町
平看護婦會
會長　清野キヨ子
附屬に經濟向き家政婦も派出致します
◎御手不足の御家庭　◎輕い御病人の附添
◎姙婦産婦の御家庭　是非御用命を願ひます。

吉田眼科病院
平町紺屋町（電話六八番）

謹啓當組第二部消防手堀滿正君ハ二月二十二日午前十二時三十分望樓勤務中突然發病療養不相叶遂ニ廿三日午前六時三十分殉職致候間此段謹告候也

追テ葬送ノ儀ハ十二月廿五日午後二時南町自宅出棺大寶寺ニ於テ佛式相營ミ申候

昭和九年十二月廿四日

平消防組

荊妻トク儀病氣療養中ノ處藥石効無クシテ二月二十二日午前七時死去仕リ候間此段謹告仕候

追テ葬儀ハ來る二十五日午後二時自宅出棺海嶽寺ニ於テ佛式ニ依リ相營可申候

昭和九年十二月二十四日

石城郡四倉町字仲町

中野捨與
男　中野正太
親戚總代　中野幸平